

第3学年音楽科指導案

指導者 松井 裕子

1 題材名 「音楽の特徴を感じ取り、情景を想像しながら聴こう」

教材 連作交響詩「わが祖国」より「ブルタバ」

2 題材について

(1) 教材観

交響詩「我が祖国」は6つのチェコの自然や伝説に基づく6つの交響詩で構成された作品である。作曲者のスメタナは当時の他国の支配下に置かれた苦しい生活や社会状況から「独立した国を作り、自分たちの故郷を取り戻そう」という思いから作曲したと言われている。この作品の一つである「ブルタバ」は、チェコを流れる川の源流から市内へと続く川の情景がオーケストラの豊かな響きで鮮明に描写されており、聴き手の想像が広がる。そしてその情景が音楽のどのような要素から裏付けされているのかを分析しながら聴くことで根拠をもって曲想を感じることができる。

(2) 生徒観

本校の3学年の生徒の多くは落ち着きがあり真面目に授業に取り組んでいる。鑑賞の授業においては、音楽の良さや美しさを味わって聴こうとする意欲も高く、自分の感じ取ったことを素直に表現しようとする生徒も多い。しかし、既に習得している音楽の諸要素や知識を生かし関連させながら楽曲の特徴や良さを理解する力が不十分だと考える。

(3) 指導観

本題材ではB鑑賞 ア(イ)、イ(ア)「音楽から感じ取った曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割を理解する」にねらいをおいて進めていく。生徒一人一人の感じとったことをもとに、協働的な学習に取り組ませる。その中でなぜそのように感じ取ったかを、音楽を形づくっている要素や構造と結びつけさせながら考える学習に重点をおく。また、この楽曲の良さを味わう中で、誕生した背景や作曲者の思い、この音楽がチェコの人々にとってどのようなものなのかを考えさせたい。

3 題材の目標

(1) 情景を想像しながら聴き、誕生した背景や作曲者の思いから音楽のもつ意味や役割を感じ取る。

(2) 感じ取った曲想と音楽を形作っている要素や曲の構造との関わりを理解する。

4 学習指導要領の指導事項と具体的な学習活動

指導事項	ア(イ)、イ(ア)「音楽から感じ取った曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割を理解する」
〔共通事項〕ア	音色 リズム 速度 強弱 構成
イ	調 フレーズ
具体的な 学習活動	○情景を想像しながら聴き、全体の曲想を感じ取る ○作曲された時代背景を理解し、作曲者の思いやこの音楽が人々の生活や与えた影響、役割に気づく ○曲想と音楽を形作っている要素、構造との関わりを理解する

5 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
題材の 評価	①音楽を形作っている要素や構造と曲想のかかわりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、要素や構造と曲想の関わりを理解し、

規 準	②音楽の特徴とその背景となる歴や社会における役割に関心をもち鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている	根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わっている。 ②音楽を形作っている要素を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる歴史や、生活や役割に理解しながら鑑賞している。
1 時	②	②
2 時	①	①

6 指導計画（2 時間扱い）

○学習内容・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
〈第 1 時〉作曲された背景や想いを理解し、情景を想像しながら鑑賞する	
○楽曲の成り立ちを理解する。 ・作曲者と曲が誕生した時代背景について知る。 ○交響詩「我が祖国」の 6 つの楽曲を知り、交響詩とはどのようなものなのかを理解する。 ・音楽 A（「ブルタバ」の主題）を聴き、曲想や音楽を形作っている要素から 6 つのどの楽曲なのかを考える。 ○「ブルタバ」の全体の流れを理解しながら鑑賞する。 ・7 つの表題があることを理解する。 ・感じ取った曲想からどのような情景を表現した標題なのかを考える。	○作曲者の曲に託した想いや当時の人々の生活や想いから誕生したことに興味関心をもたせ、全体を味わいながら鑑賞できるようにする。 ○我が祖国「ビシェフラト」「ブルタバ」「シャルカ」「ボヘミアの森と草原」「ターボル」「ブラニーク」の概要を理解させる。 ・音楽 A を聴き、自由に発想させる。正解を求めるのではなく、6 つの楽曲と結びつけようとすることに重点をおく。 ○それぞれの場面の音楽の諸要素と標題のつながりを考えながら鑑賞させる。 ☆音楽の特徴とその背景となる歴史や当時の人々にとってのこの音楽の役割に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ☆音楽を形作っている要素を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる歴史や、生活や役割を理解しながら鑑賞している。
〈第 2 時〉曲想と音楽を形作っている要素、構造との関わりを理解する	
○曲想と音楽の諸要素を関連づけて聴く。 ・自分の担当した標題について、諸要素から表現されていることを考える・・・エキスパート活動 ・グループで共有し、他の標題について知る・・・ジグソー活動 ○共有したことをもとに、曲想と要素を関連づけながら全体を鑑賞する。	○「ブルタバの 2 つの源流」を全体で鑑賞し、流れを理解させ、見通しをもたせる。 ○諸要素から表現されていることと標題の内容に関連させながら話し合いを進めさせる。 ○全体の流れ、標題を表している諸要素の変化に着目しながら鑑賞させる。 ☆音楽を形作っている要素や構造と曲想のかかわりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ☆音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想の関わり理解し、根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わっている。

7 本時の学習指導（2/2）

（1）本時の目標

- ・曲想と音楽を形作っている要素、構造との関わりを理解する

（2）展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的な評価規準
○前時の復習をする。 ・作曲者や背景、ブルタバの標題等について確認する。 ○本時の目標を理解する。 情景を表現する音楽の秘密を探りだそう！ ～曲想と音楽を形作っている要素との 関わりに気付こう～ ○標題「ブルタバの2つの源流」の場면을聴き、どのように表現しているか音楽の諸要素に着目して聴く。 ・気づきを発表し、全体で共有する。 ○担当する標題にわかれ、曲想と音楽を形作っている要素との関わりに着目して聴く。 ・担当ごとに、まとめる・・・エキスパート活動 ・エキスパート活動の内容をグループで共有し、他の標題について知る・・・ジグソー活動 ○代表グループの意見を全体で共有する。 ○全体で楽曲を鑑賞する。 ・理解したことや考えたことについて記述する。	○「音楽を形作っている要素」について、既習した鑑賞曲を活用し確認する。 ○旋律、音色、強弱、リズム、速度、構成（変化する様子）に着目させる。特に「短くやわらかい旋律が交互に表れ、その後、重なり合うこと」で「2つの源流が一つになることを表現していること」に気づかせる。 ○次の活動の学習の仕方の見通しをもたせ、意欲を持たせる。 ☆音楽を形作っている要素や構造と曲想のかかわりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ○各6人グループをそれぞれの標題にわかれ担当させる。 ○例えば、「～音色で～のような旋律が～を表現している」など諸要素同士の関わりをもってまとめさせていく。 ○5分程度たったところで「お題カード」を配布する。お題カードには、必ず気付いてほしい点を記入する。 ○正しい答えを見いだすことよりも他者の感じ方に触れ、感受の多様性に気づく。 ○説明する際は、表題を物語のように説明するようにさせる。 ○表現の豊かさから、作曲者の母国への想いや人々の生活に密着したブルタバ川が存在にも気づかせる。 ☆音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想の関わり理解し、根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わっている。
【評価】おおむね満足（B）・・・積極的に意見を出しながらも音楽の要素から具体的な根拠をもって考えることができた生徒 十分満足（A）・・・音楽の要素と曲想を結びつけ、楽曲の構成まで考えることができた生徒	